

異分野データ連携プロジェクト 平成28年度活動報告

異分野データ連携プロジェクト
事務局

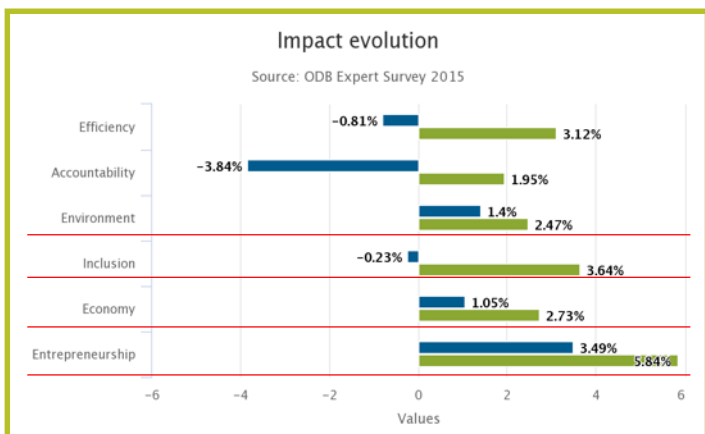
平成29年3月29日

異分野データ連携の背景

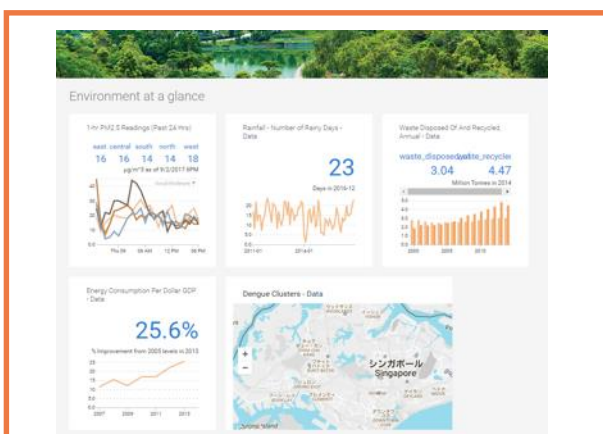
異なる分野の多種多様なデータの掛け合わせによる
新たな価値創出で、地域・社会の課題解決に貢献する

- ① 散在するオープンデータやIoTデータの利活用ができない
- ② 異なる分野のデータを横断的に連携して活用できていない
- ③ 国や自治体、住民が協働するための場がない

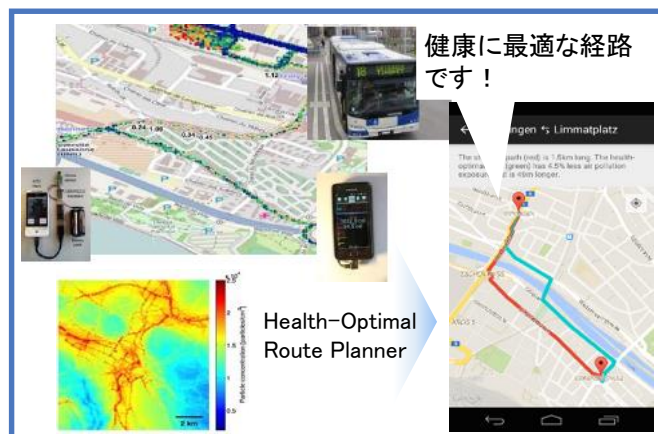
地域・人的資源を活用し、自助・互助を支える「ICT基盤」が必要



世界のオープンデータ利活用の伸び率
(OpenData Barometer Global Report,
2015): 環境、共生、経済、起業の分野に
応用



Data.gov.sg (シンガポール): の気象
や大気汚染、エネルギー、交通など
様々な動的オープンデータをAPIで
提供



OpenSense (スイス): 公共機関やクラウドソーシングによりチューリッヒ市内の
大気汚染データを収集・共有し、健康対
策等に応用

異分野データ連携プロジェクトの概要

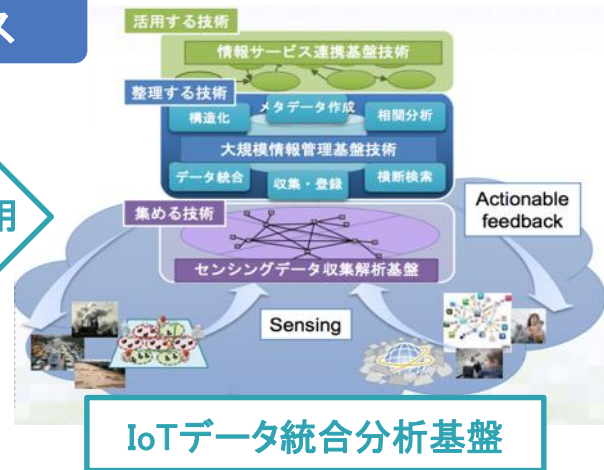
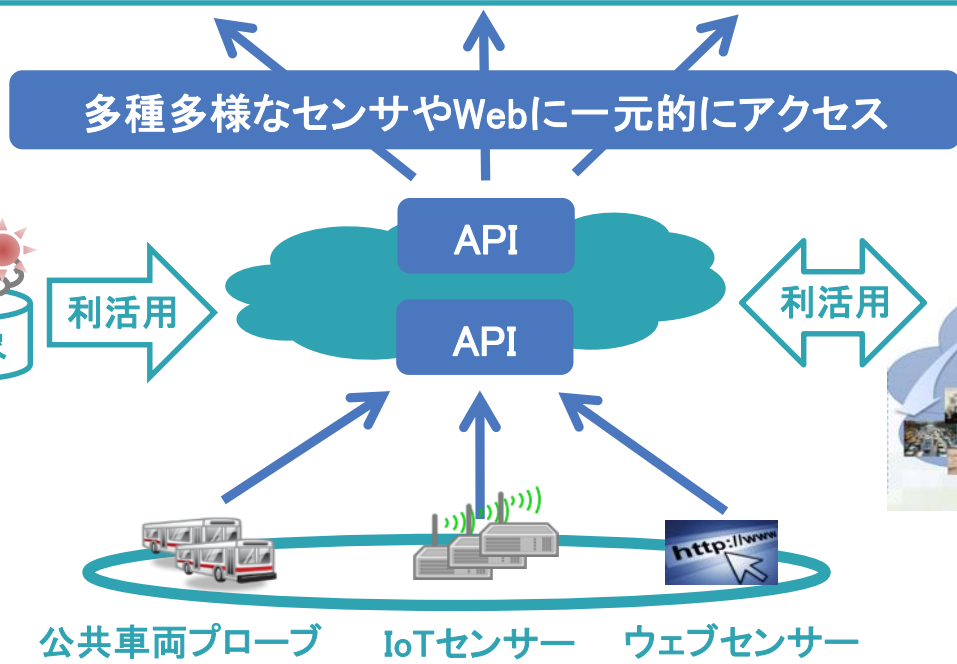
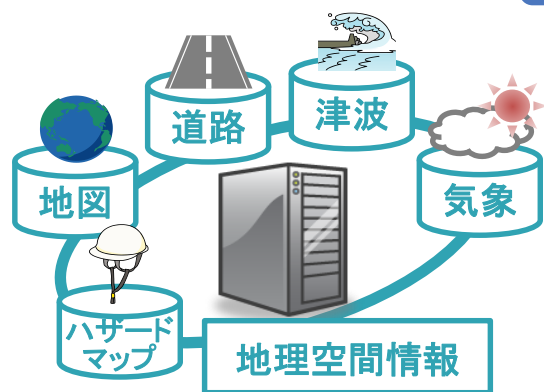
センサデータをはじめ、国・地方自治体のオープンデータや公開されているG空間データが様々な分野に利活用されるためのデータ流通・統合における課題の検討

異分野データ連携の在り方について、基盤技術・社会実装の両面から課題を整理・体系化し、技術報告書の公開等を通じた提言を行う

分野横断的なデータ統合・分析



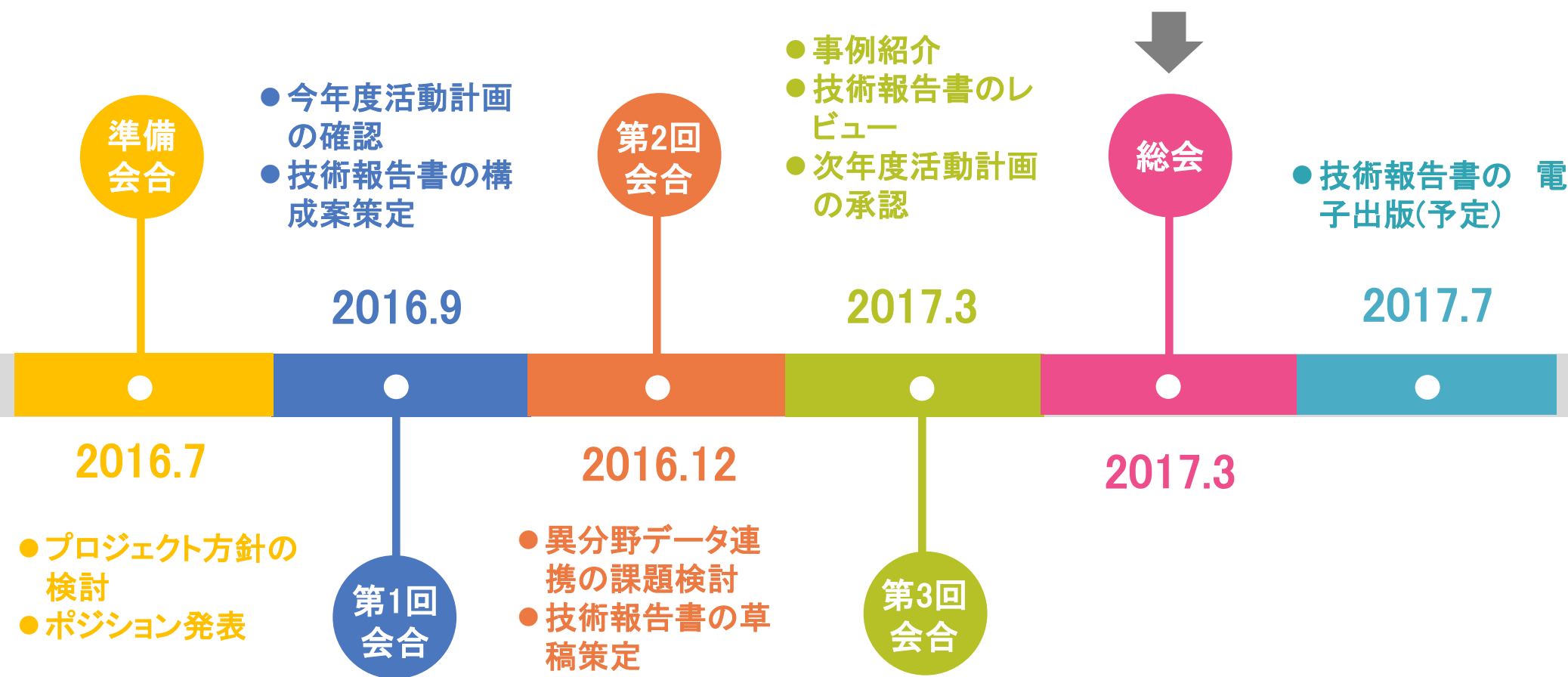
地域・社会の課題解決



ソーシャルビッグデータ流通プラットフォーム

API: Application Programming Interface

異分野データ連携プロジェクトのH28年度活動



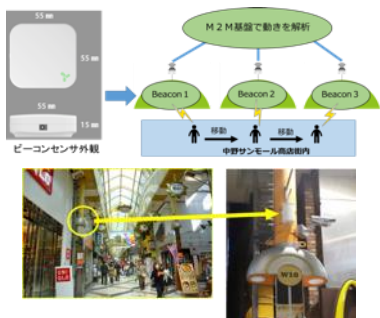
産学官から21機関37名の構成員 (2016.12時点)

異分野データ連携技術報告書の概要

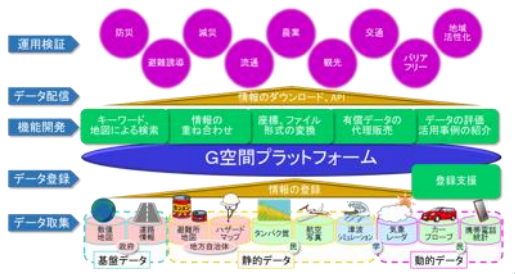
実空間データの分野横断的利活用による環境問題対策支援 (NICT)



地域に密着したデータ利活用の実践 (エリアポータル)



G空間情報アーカイブ (東大GSIS)



ケーススタディ

異分野データ連携の課題と提言

① データの横断的利活用に関する課題

- 実世界イベントのデータ形式やスキーマの共通化
- データの安心・安全な利活用技術の向上
- スケーラビリティの向上

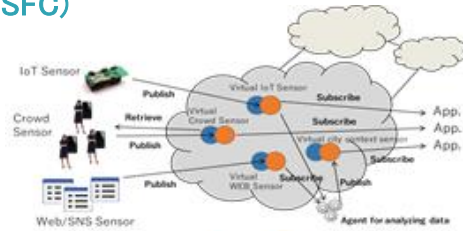
② IoT社会に向けたデータ連携基盤構築の課題

- 社会システムとの統融合
- データ流通から価値流通へのシフト

③ 課題解決指向なデータ利活用に向けて

- データ駆動型の課題解決
- データ利活用を介した協働の促進

スマートシティを実現するソーシャル・ビッグデータ利活用・還流基盤(慶應大学SFC)



「はたらく車」走行データによる自治体業務の高度化 (ゼンリンデータコム)



大規模ドライブレコーダデータによる運転者指向サービス (東大生研)

